

令和元年度第1回環境審議会における意見（令和元年5月23日開催）及びその回答

（資料2-4）

No.	区分	意見	回答（案）	該当ページ
1	基本目標全般	各基本目標における文言は第4次総合計画と整合を図るべきであり、次年度の実施計画の第1章に各目標がでてきて、細節に施策の柱が出てきて、細細節に施策が出てくるという理解でよいのか。	第4次総合計画での体系が「大綱」「政策」「施策」となっていますので、実施計画では、第4次総合計画の「大綱」「政策」「施策」がそれぞれ出てきます。第4次総合計画と文言は多少異なっていますが、意味としては同じであると考えていますので、分野対応はできていると思っています。その上で、文言については、継続性の観点から、現行計画を引き継いだ形とします。	10
2	全般	現行の生物多様性国家戦略は2020年までが計画期間である。次回の生物多様性国家戦略について把握する努力等が必要である。	御指摘のとおり、把握するよう努めます。また、第3次環境基本計画においては、参考資料1のとおり、次期生物多様性国家戦略の内容を現時点で反映できる状況にはなく、計画の見直しの際に、必要に応じてその内容の反映を行います。	
3	計画の理念・目標	豊中市の計画を参考に、吹田市が目指す方向性をイラスト等を使って、市民に分かりやすく示すべきである。	市民にわかりやすく、イラスト図を掲載しました。	12
4	分野横断的戦略全般	分野横断的戦略の中に細かく目標が設定されていることで、戦略の意味合いで分かりにくくなっている。目標の設定も各分野でばらつきがあることも分かりにくさの要因と考えられる。	戦略の「活動目標」と「達成目標」は、「活動指標」と「達成指標」に修正し、分野別の文言と統一しました。また、指標の設定については、「重点戦略」は分野横断的なものであるため、分野別目標と重複するものがあるということで、整理をいたしました。	13-20
5	分野横断的戦略全般	「まもる」は対物的であるため、基本目標と重複するため不要ではないか。	「分野横断的戦略」を「重点戦略」に修正し、地球規模の課題であるエネルギー消費量及びごみの排出量の削減、生物多様性の損失等がありますが、本市においても同様の課題があるため、重点的に取り組まなければなりません。そのため重点戦略「まもる」を設定するとして整理いたしました。	13
6	分野横断的戦略はぐくむ	環境サポーター養成講座を活動指標に入れることはできないか。	「すいた環境サポーター養成講座修了生者数（累計）」を活動指標とします。目標値については、仕事等の都合で一定数修了できない方がいること及び現況値が累計で60人（H27年度より平均15人）である状況から、令和2年度から毎年1人ずつ増やし、目標年度には修了生を80%とし、目標値を累計で255人とします。	15
7	分野横断的戦略はぐくむ	はぐくまれる方のステージがある。裾野を広げるだけでなく、活動的な立場、指導的な立場になる人についても指標を検討すべきである。		
8	分野横断的戦略はぐくむ	活動指標：環境学習発表会参加校数は、全校であるべきではないか。	学校教育では、環境教育に限らず、様々な教育を限られた枠の中で、各学校が創意工夫により行っています。そのような中で、現状参加校が減少傾向であることを踏まえると、全校を目標設定することは困難と考えます。また、環境学習発表会については、開催の可否や企画運営の主体を千里リサイクルプラザが担っているものであり、それを活動指標として掲げてしまったものであるため、市の計画での活動指標とするに適切ではないと判断しました。環境学習発表会については、活動指標としてはなく、人材をはぐくむという観点から、施策の柱と具体的施策「◆持続可能なライフスタイルを実践する人材を”はぐくむ”」の「②環境に関する啓発活動及びイベント等の開催」で推進していくこととします。	16
9	分野横断的戦略はぐくむ	次世代の子どもに対する意識啓発は重要な問題である。啓発方法及び活動指標について検討する必要がある。	子どもへの環境教育は重要なものと考えています。小学校4年生時には資源循環エネルギーセンターの社会見学、エコスクール活動簿（学期ごとにエコ活動を評価）を活用した環境に優しい学校づくり、市民団体やPTA等と協働したピオトープや作り等の環境教育を推進しています。学校での環境教育に関する指標については、「エコスクール活動簿の評価（教室での取組）が21点以上の学校数」を設定します。	15

No.	区分	意見	回答(案)	該当ページ
10	分野横断的戦略はぐくむ	近隣市町村との連携に関する目標について、地域材の使用量ではなく、協定の結んだ数とした方が良い。	協定については、フレンドシップ協定があり、都市魅力部を中心として、協定先と交流をしているところです。環境部としては、国の第5次環境基本計画に掲げられている「地域循環共生圏の構築」をまずは地域材の活用から目指していくものですので、現状の活動指標とします。	15
11	分野横断的戦略はぐくむ	例えば、駐車場がアスファルトに覆われているのではなく、緑化するなど、普段生活している街中が環境に配慮されていることは重要な環境教育であるため、行政がリードして進めていくべきである。	駐車場緑化については、環境まちづくりガイドライン等の制度の運用により、事業者への働きかけは行っており、件数も増えているところです。今後も、環境に配慮したまちづくりへの誘導を図ります。また、駐車場緑化については、分野横断的戦略「そなえる」の「◆ヒートアイランド現象にそなえる」の中の①に追記します。	20
12	分野横断的戦略はぐくむ	地域循環共生圏に関する施策の方向性を示すべきである。	本市における地域循環共生圏に関する記事(コラム等)にて、まずは木材利用から、広域的な生物多様性を保全し、北摂にも広げていくことを検討するという本市の方向性について記載しました。	21
13	分野横断的戦略まもる	生物多様性の認知度の目標について、生物多様性国家戦略2012-2020では目標が75%となっているため、その点を踏まえて設定すべきである。	本市の生物多様性の認知度は、国の54.6%(H30年度)と比べて12%ほど低い状況です。また、国では、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」についても認知度の集計をしており、吹田市の調査と質問内容が若干異なっています。このような状況及び御指摘を踏まえ、生物多様性の重要性に重きをおき、「知っており重要な問題だと思う36.6%」を向上させるべく、「生物多様性の認知度(重要性)」について、50%に変更します。	17
14	分野横断的戦略そなえる	居住地周辺の夏場の暑さ(涼しさ)の満足度を達成指標として設定しているが、気候変動の状況を鑑みると、達成は困難ではないか。	気候変動やヒートアイランド現象に対して、ハード面のみならず個人ができる適応策についての周知を図ることを含めて適応策を講じ、その結果として、市民の満足度の向上を目指して取り組んでいきたいと思っていますので、現状の達成指標といたしました。	19
15	資源循環	海洋プラスチック問題への取組を明示すべきではないか。	使い捨てプラスチックの使用を削減するということが海洋プラスチックの削減につながるという考えのもと、「プラスチックごみを含むごみの減量・再資源化」という表現にしています。また、「4 現状(成果)と課題」の「(3) 資源循環分野における社会状況」において、海洋プラスチックごみのことに言及しています。	31
16	資源循環	前計画からエコイベントに関する記述が削除されているが、その理由は。	エコイベントに関する記述を再掲します。掲載場所については、より適切な掲載箇所を検討した結果、P26の資源循環分野の施策の柱2つ目の中の、施策3つ目を「再生資源集団回収やエコイベントなど、地域リサイクル活動の活性化」といたしました。	30
17	生活環境	公害に関する苦情を解決した割合の目標値が80%というのは、全国平均と比べても低いのではないか。	吹田市では過年度からの未解決案件を含めて割合を算出しており、上位計画である第4次総合計画の目標値として80%と設定しています。割合の算出方法については、注釈に「※2 算出方法：年度内に苦情を解決した件数/苦情受付件数(苦情受付件数は前年度からの未解決分を含む)(解決とは、陳情者が満足及び納得したもの、発生源の改善・喪失等をいう)」と記載し、算出方法がわかりやすくしています。	33
18	SDGsとの関連	市民のSDGsの認知度が低いため、「はぐくむ」に啓発活動を記載すべきである。	「第5章 SDGsの目標に向けた取組」において、「本市が行う環境啓発イベント等においては、その環境取組とSDGsとの関係性を明示等することで、認知度の向上を図ります。」と記載しました。	45
19	SDGsとの関連	施策の柱や具体的な施策に対応するSDGsのゴールを整理すべきである。	「第5章 SDGsの目標に向けた取組」において、施策の柱に対応するSDGsのゴール整理しました。また、具体的な施策に対応するゴールについては、資料編に掲載する予定です。	47-48
20	運営方法	ESDの観点から、環境審議会のような場に教育委員会の方も同席すべきである。	教育委員会へ依頼し、承諾を得ています。	